

ひかりのこ

12月園便り

聖ミカエル幼稚園

2012年11月22日発行

月主題：うれしいね なにができるかな

11月18日の日曜日に遅すぎる初雪が降り、翌朝の月曜日は一面真っ白になりました。登園する子ども達の3分の1位が雪遊びの準備が出来ていて、今年度初の雪合戦と雪だるま作りを楽しみました。これからの季節、どんなに寒くても子ども達はほっぺを真っ赤にして元気いっぱい遊びます。園長も完全装備で子ども達とうんと遊びたいと思います。

いよいよ12月。教会の最大の行事であるクリスマスの季節です。子ども達はクリスマスに向け、聖劇の練習をしたり、アドベントカレンダーをつくっています。お母さん方も参加して、クリスマスのお祝いが温かく楽しいものになりますよう願っております。

さて、クリスマスといえば自分の子どもの頃を思い出します。私は5人兄弟の2番目として育ちました。両親はミカエル教会で結婚し、私は生まれたころからずっとこのミカエル教会でクリスマスを迎えてきました。クリスマスイブには母がたくさんのごちそうを作ってくれました。夕方になるとちょっとおしゃれをして、家族7人でミカエル教会へ向かいます。教会のクリスマスイブは昔からろうそく礼拝。子どもにとっては火のついたろうそくを手を持って歌を歌ったりお祈りをするのはちょっとドキドキ。でも電気を消した礼拝堂にろうそくの火がゆらゆら揺れて、とてもきれいです。礼拝が終わると教会の皆さんにご挨拶をして家に帰り、我が家のクリスマスパーティーが始まります。食卓を囲んで、みんなで手を合わせて、父がお祈りをします。とても長いお祈りなので私たち子どもは目の前のごちそうを我慢しながらお目をつぶってお祈りを捧げます。「アーメン。いただきます！」やっとおいしい夕ごはん。そのうち教会の若者たちがやってきて、キャロリングと言って、玄関で聖歌を歌ってくれます。一緒に大きな声でクリスマスソングを歌って、「さあどうぞ」、と中へ招き入れます。小さなぼろ家にたくさんの方が集まり、家じゅうのいすを食卓に集めてごちそうを食べたり歌を歌ったり。夜寝る前には、神様に「世界中の子供にサンタさんが来ますように。」とお祈りをしてわくわくしながら眠りにつきます。翌朝枕元に置いてある包み紙を開ける時のうれしかったこと。今思い出しても気持ちが高揚するような温かな思い出です。

皆さんのお宅でもきっと楽しいクリスマスのお祝いをされることでしょう。もしお時間があれば、ご家族でイブの礼拝に参加しませんか。いつもとはまた違う、深い温かな気持ちでクリスマスを迎えることができると思います。お待ちしております。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

裸足のランナーと呼ばれる「アベベ・ピキラ」は、マラソンでは始めてオリンピック2連覇を果たしたエチオピア出身のマラソンランナーです。アベベは、1960年のローマオリンピックに候補選手として参加し、偶然に出場するようになります。が、自分の足に合う競技用の靴がなく、裸足で走ることにになります。しかし、アベベはだれよりも早く走り金メダルを獲得します。ほぼ無名に近かったアベベが、しかも裸足で走って優勝したことは奇跡だと言われました。しかし、アベベは4年後の東京オリンピックで世界記録まで破って金メダルを取ってそれは奇跡ではなく自分の実力であったことを証明して見せます。けれども、現実にはオリンピックの主催側がエチオピアの国歌も用意しないほど、アベベの勝利はだれも期待していなかったことでした。それで皆はまたこれこそ奇跡だといいました。

アベベはオリンピックの2連覇のお祝いの賞としてエチオピアの王様から乗用車をもらいます。が、残念なことに、賞でもらったこの車の事故で、アベベは下半身が麻痺する大怪我をします。信仰の深いクリスチャンとしての彼の敬虔な姿勢から「裸足の哲人」とも呼ばれていたアベベの走りがこれ以上見れないということで多くの人々が悲しましました。しかし、本当の奇跡はこれからです。下半身麻痺で何も出来ないと思われていたアベベは、1970年ノルウェーで開かれた車椅子のクロスカントリー競技に出場し、またも金メダルを取ります。そして、パラリンピックにも出場し、洋弓と卓球でも金メダルをとります。皆はもう終わりだと思ったとき、本当の奇跡を見せたアベベの力はどこから来たものでしょう。アベベは言います。「わたしを強めてくださる方(神様)のお陰で、わたしにはすべてが可能でした。(聖書から)」と。ミカエルの子供達もいつもこの告白の中で生きていて欲しいです。

チャブレン ジョシュア 司祭 李 香男